

2014/7/23 朝日

原発事故の悲惨さ 忘れたか

パート 篠原 陽子

(埼玉県 41)

九州電力川内原発が再稼働するそうだ。原子力規制委員会が「お墨付き」を与えた。全て止まっていた国内の原発がまた動き出す。福島悲惨事故の二の舞いは本当じゃないのか。

3年前のような事故が川内原発で起こらないとは誰にもいえない。規制委もリスクは「ゼロではない」という。なのになぜ、規制委はゴーサインを出すのか。

規制委が川内原発について募集中の意見は、技術的、科学的なものだけだ。国民の切実な声は届かない。事故で一番に犠牲

になるのは声をあげにくい、社会的に弱い人たちなのに。

私が住む地域は、福島の事故で放射線量が高い「ホットスポット」になり、今も埼玉県内の他地域の約2倍の線量を記録している。被害と不安は、今でも広範囲で続いているのだ。

3年前のあの日。福島をはじめ、東北や首都圏の人々が辛くも命をつないだのは、原発が安全だったからでも、政府や電力会社が尽力したからでもない。運が良かっただけだ。

その現実を忘れていないか。空気と、水と、大地を汚し、人の生活と心を脅かす原発は、もういない。